

**第2回**  
**東日本大震災復興支援**  
**リハビリテーション工学講習会 in 福島**  
**報告書**



**2014年4月12日(土)～13日(日)**

**於:福島テルサ**



**日本リハビリテーション工学協会**

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会は、生活を行う上で障害を有する人々に対し、その生活を豊かに実現するための工学的支援技術を発展・普及させるとともに、この技術を通じて学術・文化・産業の振興に寄与することを目的とし、この目的に賛同する個人および団体によって構成されています。

当協会では被災地域からの支援要請に応えることができるよう 2011 年 4 月 13 日に「東日本大震災復興支援に関する専門委員会」を設置し、2011 年度は宮城県名取市箱塚桜応急仮設住宅（箱塚桜団地）において住宅改修活動を、2012 年度は第 1 回復興支援講習会 in 盛岡を行いました。

震災から 3 年が過ぎましたが復興はまだまだです。ともすれば記憶から遠ざかっていきかねない現状ですが、まだまだ忘れてはなりません。そのような状況に対し、当協会の 2013 年度の活動のひとつといたしまして、被災県である福島県にて、8 つの SIG によるリハ工学・支援技術に関する講習会を開催いたしました。このイベントを通して、わずかではありますが被災地の復興の一助になればと思っています。

2014 年 5 月吉日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会  
会長 繁成 剛  
同東日本大震災復興支援に関する専門委員会  
委員長 沖川 悦三

◆事業名称

第2回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 福島

◆実施日

2014年4月12日(土)～13日(日)

◆会場

福島テルサ

◆主催

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会

◆共催

コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG  
SIG住まいづくり、移乗機器SIG、義肢装具SIG、乗り物SIG

◆協賛(順不同)

株式会社岡村製作所 日進医療器株式会社  
株式会社アサヒテックコーポレーション e企画(深野栄子) 株式会社今仙技術研究所  
WHILL株式会社 株式会社オーエックスエンジニアリング 有限会社オーエックス神奈川  
川村義肢株式会社・パンフィックサプライ株式会社 株式会社カワムラサイクル  
義肢装具SIG 有限会社木村義肢工作研究所 近鉄スマイルサプライ株式会社  
クマリフト株式会社 車いすSIG 株式会社玄人 株式会社コーヤシステムデザイン  
株式会社JINRIKI 株式会社タイカ タカノ株式会社 株式会社766  
日本ウイール・チェアー株式会社 日本シグマックス株式会社 日本チェアスキー協会  
特定非営利活動法人ハーツ生活支援 株式会社プラッツ 株式会社松永製作所  
株式会社ミキ 株式会社FORCE 株式会社モリトー 株式会社ユーキ・トレーディング  
吉野石膏販売株式会社 WILD GATE エスマルクソーイング

◆プログラム

		1日目 4月12日(土)		2日目 4月13日(日)		
9:30～	受付:			3階 あぶくま(96名)	4階 つきのわ(54名)	
		3階 あぶくま(96名)	4階 つきのわ(54名)	09:00～	⑨移乗機器SIG 講師:古田恒輔(神戸学院大学) 「移乗の問題と座位移乗手法(トランスファー・ボードを用いて)」	
10:00～ 10:10	開講式(予定) 会長挨拶:繁成剛(東洋大学) 司会:沖川悦三(協会理事・神奈川県総合リハセンター)			10:20	⑩義肢装具 SIG 講師:森田千晶(杏林大学)他 「体験編「義肢装具の可能性を知ろう」	
10:10～ 11:30	①車いす SIG 講師:松尾清美(佐賀大学) 「歩行が困難になっても大丈夫、車椅子と住環境整備で生活を楽しまう」	②コミュニケーションSIG 講師:伊藤和幸(国立障害者リハセンター)、寺師良輝(総合せき損センター) 「最適なコミュニケーション環境をめざして(選定・導入支援編)」		10:30～ 11:50	⑪移乗機器SIG 講師:古田恒輔(神戸学院大学) 「移乗を前提としたベッド上や車いす上での姿勢修正」	
11:30～12:30	お昼休み			11:50～12:50	お昼休み	
12:30～ 13:50	③車いす SIG 講師:桂律也(クラーク病院) 「車椅子要介護の方の在宅復帰」	④コミュニケーションSIG 講師:伊藤和幸(国立障害者リハセンター)、寺師良輝(総合せき損センター) 「最適なコミュニケーション環境をめざして(適合・機器操作編)」		12:50～ 14:10	⑬SIG 姿勢保持 講師:相馬正之(東北福祉大学)、繁成剛(東洋大学) 「車椅子での姿勢を改善する方法と実際」	⑭SIG 住まいづくり 講師:八藤後猛(日本大学理工学部) 「住宅内事故防止 住まいの安全・安心のために」
14:00～ 15:20	⑤乗り物SIG 講師:櫻井 理(名取市在住当事者) 「24時間人工呼吸器使用者の在宅療養上のリスクマネジメント～東日本大震災の教訓から学んだこと～」	⑥特別支援教育SIG 講師:圓井美貴子、圓井陽子(徳島県肢体不自由児者父母の会連合会)、佐藤亜弥(水の都記念病院) 「コンセプトは「みんなのお母さん」! -自然と心に滑り込む、障害理解の進め方、広げ方-【前半】」		14:20～ 15:40	⑮SIG 姿勢保持 講師:鈴木聖貴(川村義肢(株))、繁成剛(東洋大学) 「ウレタンフォームで製作する姿勢保持具」	⑯SIG 住まいづくり 講師:鈴木基恵(横浜市総合リハビリテーションセンター)「事例から学ぶ住環境整備」
15:30～ 16:50	⑦乗り物SIG 講師:岩崎満男、増子千景(WILD GATE) 「車椅子装着タイプの移動補助具の紹介」	⑧特別支援教育SIG 講師:圓井美貴子、圓井陽子(徳島県肢体不自由児者父母の会連合会)、佐藤亜弥(水の都記念病院) 「コンセプトは「みんなのお母さん」! -自然と心に滑り込む、障害理解の進め方、広げ方-【後半】」				



3F	あぶくま
4F	つきのわ



9:00~15:50 第2回 東日本大震災復興支援  
リハビリテーション工学講習会in福島





## ◆プログラム概要

### ①車いすSIG

#### 「歩行が困難になっても大丈夫、車椅子と住環境整備で生活を楽しまう」

講師：松尾清美(佐賀大学医学部 地域医療科学教育研究センター 福祉健康科学部門)

この講演では、移乗・姿勢・移動という車椅子の3機能と車椅子を活用した生活事例を紹介します。そして、この講演で伝達する「車椅子を使って何ができるのか」について、参加された皆さんが、皆さんの地域や障害者(児)や高齢者に伝え自立支援を実践して、例え歩けなくなっても車椅子を活用すれば人生を楽しめる事などを伝えて頂きたいのです。

支援を実行するときには、車椅子使用者を取り巻く環境要素を知って支援することが経済的であり実用性が高いものとなります。したがって、ここでは車椅子が持つべき3機能について、身体機能別の事例を示して解説し伝達します。以下は、講演の流れです。

- ①移乗：ベッドと車椅子間の移乗方法とトイレや浴室、自動車などへの移乗方法について
- ②姿勢：身体機能や生活方法に適した姿勢を得るための車椅子とその姿勢について、
- ③移動：手駆動、足駆動、電動駆動という駆動方法と、身体機能別の選択方法について
- ④車いすでの楽しい生活：車椅子を活用して生活を楽んでいる事例と様々な車椅子について



### ③車いすSIG

#### 「車椅子要介護の方の在宅復帰」

講師：桂律也(クラーク病院)

在宅復帰率が基準の一つになっている回復期リハビリテーション病棟では、介護度の高い患者をいかに在宅介護に移行させていくかという方策が重要となっている。介護保険サービスなどで介護量の軽減が図れたとしても、家族による介護をゼロにすることはできない。そのため様々な福祉用具の導入が試みられるが、起居・移乗・車椅子移動なども介助が必要な利用者や、ベッド上・車椅子上などでの姿勢調節が必要な利用者では、必要な機器の選定・導入(諸手続きを含む)、使用法の指導・習得、必要な家屋環境の改修・整備に数カ月を要すことも少なくない。期限の数か月前に在宅介護の意思を明らかにできる家族はそれほど多くはない。ここでは、起居・車椅子移動が要介護の高齢者を想定して、必要な機器についての解説、機器の導入指導のありかた、回復期リハビリテーション病棟や介護老人保健施設などへの機器の導入について概説していく。



## ②コミュニケーションSIG

### 「最適なコミュニケーション環境をめざして（選定・導入支援編）」

講師

: 伊藤和幸(国立障害者リハセンター)

: 寺師良輝(総合せき損センター)

コミュニケーション活動を支援するにあたっておさえておくべきポイントを整理していきます。

(1)コミュニケーション手段の確認…支援対象者の運動機能や認知能力を把握しておきましょう。言葉は分かっても文字をつづるのは難しい場合があります。50音文字盤以外のコミュニケーション手段を考えておきましょう。また、支援対象者のニーズを把握することも重要です。

(2)スイッチの選び方…支援対象者の身体機能に適したスイッチを選びましょう。OT や PT が関与することでスイッチの適合がスムーズになります。



## ④コミュニケーションSIG

### 「最適なコミュニケーション環境をめざして（適合・機器操作編）」

講師

: 伊藤和幸(国立障害者リハセンター)

: 寺師良輝(総合せき損センター)

コミュニケーション活動を支援するにあたっておさえておくべきポイントを整理していきます。

(3)スイッチ操作時の誤入力の回避方法…不随意運動などで意図しない操作が誤入力になります。誤入力を回避する方法を考えましょう。意思伝達装置には誤入力を避けるための調整機能がついています。

(4)最近普及しているタブレットを使うにはどうすればよいでしょう。スイッチ操作でiPadを利用してみましょう。



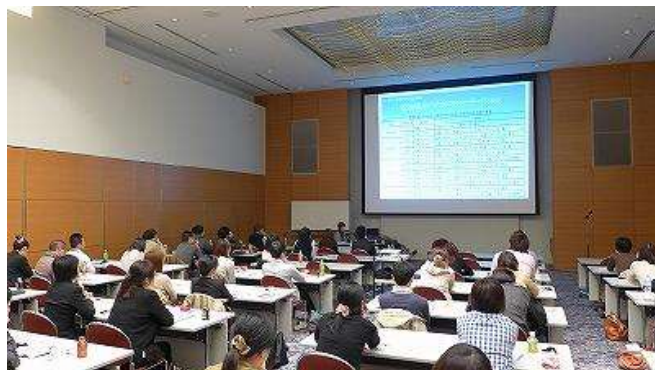


### ⑤ 乗り物SIG

#### 「24時間人工呼吸器使用者の在宅療養上のリスクマネジメント ～東日本大震災の教訓から学んだこと～」

講師：櫻井 理(宮城県名取市)

障害当事者としての震災体験の発表と、日ごろからの備え、移動保障や今後の課題などを在宅療養上のリスクマネジメントというテーマです。東日本大震災では、命にかかわる大変な経験をしました。震災後の被災生活では、使用する人工呼吸器の停電時の電源対応の問題など日ごろからの備えの大切さを痛感しました。この体験の情報発信を継続的に伝えることが重要と思い、今回の発表機会を頂いたので動画を交えつつ事例発表いたします。



### ⑦ 乗り物SIG

#### 「車椅子装着タイプの移動補助具の紹介」

講師

:岩崎 満男(乗り物 SIG 代表)

:増子 千景(WILD GATE)

最近、車椅子移動者の方々の近距離移動や、災害時の緊急避難用として、車椅子に着脱して移動機能の拡大を図る道具が増えてきました。それらの中で、実際に機器を持ち込み見て触ってちょっと動かして見て、「使用する側の立場」でのワイワイガヤガヤを試みました。機器の候補としては、着脱式ハンドバイク(ハンドサイクル)、JINRIKI Quick(『着脱式』車いすの緊急避難装置)、非常用階段避難車「エクセルチェアー」、フリーホイール(車椅子の補助前輪)、スマートドライブ(米国マックスモビリティ社製の電動アシストユニット)等です。





## ⑥特別支援教育SIG

「コンセプトは「みんなのお母さん」！－自然と心に滑り込む、障害理解の進め方、広げ方－【前半：講演】」

講師

：圓井美貴子・圓井陽子（徳島県肢体不自由児者父母の会連合会）

：佐藤亜弥（水の都脳神経外科病院作業療法士）、他

例えば、若い人の障害理解を育てる講座をする時、あなたは受講生達にとってどういう存在ですか？先生？リーダー？私は、そういった講座をする時、まず受講生達のあるがまを認める事から始めます。決して正解を求めない。決して否定しない視点がそこにあります。彼らの言葉に向き合い、精一杯の言葉を返します。そこに答えは無いし、100%思いが伝わる訳でもないですが、ただ一人の人としての熱意と行動が、自然にみんなの心にバリアフリーを生み、私を「みんなのお母さん」に育てていくように思います。そう、私はいつでも「みんなのお母さん」なのです。お母さんだから、決して飾らない言葉で親しく語りかけます。時にはトチルから応援しないといけません。障害のある仲間達とともに楽しめるよう、チームワークを駆使し、自らできる事を探して頑張ります。すると、お母さんは褒めてくれ、すごく喜んで大笑いします。そんな障害理解を進めてきた活動経緯を、障害のある娘と若い仲間とともに語りながら、楽しいプチ講座体験もしてみようと思います！



## ⑧特別支援教育SIG

「コンセプトは「みんなのお母さん」！－自然と心に滑り込む、障害理解の進め方、広げ方－【後半：ワークショップ】」

講師

：圓井美貴子・圓井陽子（徳島県肢体不自由児者父母の会連合会）

：佐藤亜弥（水の都脳神経外科病院作業療法士）、他

例えば、若い人の障害理解を育てる講座をする時、あなたは受講生達にとってどういう存在ですか？先生？リーダー？私は、そういった講座をする時、まず受講生達のあるがまを認める事から始めます。決して正解を求めない。決して否定しない視点がそこにあります。彼らの言葉に向き合い、精一杯の言葉を返します。そこに答えは無いし、100%思いが伝わる訳でもないですが、ただ一人の人としての熱意と行動が、自然にみんなの心にバリアフリーを生み、私を「みんなのお母さん」に育てていくように思います。そう、私はいつでも「みんなのお母さん」なのです。お母さんだから、決して飾らない言葉で親しく語りかけます。時にはトチルから応援しないといけません。障害のある仲間達とともに楽しめるよう、チームワークを駆使し、自らできる事を探して頑張ります。すると、お母さんは褒めてくれ、すごく喜んで大笑いします。そんな障害理解を進めてきた活動経緯を、障害のある娘と若い仲間とともに語りながら、楽しいプチ講座体験もしてみようと思います！





### ⑨ 移乗機器SIG

「移乗の問題と座位移乗手法(トランスファー・ボードを用いて)」

講師: 古田恒輔(神戸学院大学)

2013年6月に厚生労働省による腰痛予防指針が19年ぶりに改正されました。この背景にはここ数年間における施設介護従事者や医療スタッフの腰痛発生の増加が大きく影響しています。この改正では人が人を持ち上げる上下方向の動作ではなく、水平方向の移乗介助を行うように求めています。移乗機器SIGでは、リフト等の移乗機器だけでなくトランスファーボードやスライディングシートなどを用いた移乗技術の講習を行っています。是非この機会に水平方向の移乗技術の考え方と実際のテクニックを体験してください。



### ⑩ 移乗機器SIG

「移乗を前提としたベッド上や車いす上での姿勢修正」

講師: 古田恒輔(神戸学院大学)

ベッドと車いす間の移乗介助を必要とされる方は、ベッド上での移動動作にも多くの介助を必要としています。移乗動作で腰部への負担が問題視されていますが、そればかりでなくベッド上での寝返り介助や引き起こし、座位保持、車いす上での姿勢修正など姿勢の変換時に大きな負担が発生しています。移乗機器SIGでは、移乗の問題だけでなく、姿勢修正や姿勢変換時の介助負担にも目を向けており、腰部負担のない姿勢変換や姿勢修正、寝返り支援方法を検討しています。今回は、これらの際に起こる人への負担とスライディングシートを用いたベッド上での姿勢変換や車いす上での姿勢修正の負担のない介助手法について講義と実習を行います。是非この機会のご体験ください。



## ⑩義肢装具 SIG

### 体験編「義肢装具の可能性を知ろう」

講師

: 森田千晶 (杏林大学保健学部作業療法学科)

: 月城慶一 (新潟医療福祉大学医療技術学部義肢装具自立支援学科)

: 剣持悟 鈴木淳也 松田靖史、川村慶、ほか (川村義肢株式会社)

: 仲内信行 (オットーボックジャパン)

義肢装具ユーザーには日常生活でなくてはならない義肢装具ですが、これらの用具が無ただけでユーザーの日常がどれくらい不自由になったのでしょうか？

装具、体験用義手、体験用義足を実際に使ってみましょう。また、義肢装具の可視化を解析ソフト「ダートフィッシュ」や「ゲイトジャッジシステム」で体験してみましょう。その他、義肢装具を使用する際に気を付けなければならないこと、こんなものがあると便利なグッズ、などの情報交換をしましょう。普段、義肢装具で疑問に感じていることを発表し合い、ディスカッションして問題解決しましょう。医療現場で働いている方がユーザーさんへアドバイスする際にとっても役に立つ80分です。



## ⑫義肢装具 SIG

### 応用編「義肢装具の現在未来。一歩き方の違いを体験しよう」

講師

: 月城慶一 (新潟医療福祉大学医療技術学部義肢装具自立支援学科)

: 森田千晶 (杏林大学保健学部作業療法学科)

: 剣持悟、鈴木淳也、松田靖史、川村慶、ほか (川村義肢株式会社)

: 仲内信行 (オットーボックジャパン)

体験した結果を実際に解析してみましょう。原因と対策を、わかりやすい教材を使って説明いたします。また実際に体験できない義足ソケットの内側やライナーや断端のことも解りやすく説明します。

近年、義足の高機能化、ハイテク化が進んでいます。2020年パラリンピック東京に向け、スポーツに対応した義足パーツも増えて来ました。同時に、安定性を重視した高齢者の義足の需要が増えています。このように低活動者～スポーツまでの義足パーツの選択を誤らないコツをお教えします。実際にパーツを触って感じたり、実際にコンピューター制御膝を使っているユーザーに「あんなことこんなこと」してもらいましょう。





### ⑬SIG 姿勢保持

#### 「車椅子での姿勢を改善する方法と実際」

講師:

相馬正之(東北福祉大学)

繁成 剛(東洋大学)

標準型の車椅子に座っている利用者の多くは「仙骨座り」や「斜め座り」になっていることが多く見受けられます。車椅子での移動や食事等の作業をし易くするため、あるいは褥瘡へ関節拘縮などのリスクを軽減するために、適切なシーティングの導入が必要です。この講習では、高齢者施設で車椅子利用者の姿勢を改善した例を紹介しながら、実際に車椅子でのシーティングの方法を実演する予定です。



### ⑮SIG 姿勢保持

#### 「ウレタンフォームで製作する姿勢保持具」

講師:

鈴木聖貴(川村義肢(株))

繁成 剛(東洋大学)

椅子や車椅子で座る姿勢を改善するために、身体を支持する部分の形状に合わせてウレタンフォームを削り出し、クッションや姿勢保持具を製作します。この講習では、利用者の様々な身体や姿勢の特徴に合わせてウレタンフォームを加工する方法を実際に体験していただく予定です。



#### ⑭SIG 住まいづくり

##### 「住宅内事故防止 住まいの安全・安心のために」

講師：八藤後 猛（日本大学理工学部まちづくり工学科（建築学科兼任））

わが国では、毎年 13,000 人以上の人が住宅内において死亡しています。これは交通事故による死者数の 2 倍近くもありますが、あまり知られていません。一人の死亡者の発生は、その背後に数十倍の後遺障害を残す人や寝たきりになる人を生みだし、数百倍の人が入院・通院をしていると思われます。

その多くは、住宅内の建築・設備や家具のしつらえの配慮によって未然に防ぐことができます。例をあげれば、最も多い転倒・転落による死亡は、その多くが平な床面で起こっています。重大事故防止のために、従来からいわれている「①事故となる原因の除去(例:つまづく、滑る)」のほかに、「②事故が起こっても軽い怪我ですむ(転倒先に人体にダメージを与えるものがない)」のどちらか一つだけでも配慮できればよいのです。そして、こうした環境上の配慮は、子どもや後期高齢者に効果が大きいことが、最近わかってきました。

本講座では、従来のバリアフリー環境に加え、安全のために今日からできる簡単な配慮から、リフォームにおいてぜひ実施したいものまで幅広く解説したいと思います。



#### ⑯SIG 住まいづくり

##### 「事例から学ぶ住環境整備」

講師：鈴木基恵（横浜市総合リハビリテーションセンター）

障害状況に合わせて住環境を整備することは、末長く、健康的に、在宅で生活するための一つの方法です。目的は自立をしたい、介助を楽にしたいなどさまざまです。本人や家族の要望を聞き取り、重要視しているポイントを見極めることと、隠れたニーズを拾い出すことが重要になります。住環境整備を検討する上では車椅子や洗体いすなどの福祉用具やリフトや段差解消機などの福祉機器についても知っているのと、より充実した提案が可能になります。また、さまざまな疾患、障害の事例を見たり聞いたりすることでプランのアイデアの幅を広げることでもできるのではないのでしょうか。

今回は、脳血管障害から人工呼吸器などの在宅医療が必要な方、脳性麻痺児などさまざまな事例を通じて、住環境整備を検討する際のポイントをまとめました。みなさんと意見交換しながら、よりよい住環境整備について考えていければと思います。



◆講師・スタッフ一覧

スタッフ	協会	繁成 剛
スタッフ	協会	沖川 悦三
スタッフ	協会	糟谷 佐紀
スタッフ	協会	川村 慶
スタッフ	協会	佐藤 遼太郎
スタッフ	協会	鷹觜 悦子
スタッフ	協会	巴 雅人
スタッフ	協会	藤本 慶秀
スタッフ	協会	森田 千晶
スタッフ	協会	山田 浩望
スタッフ	協会	吉田 泰三
スタッフ	協会	深野 栄子
講師・スタッフ	コミュニケーションSIG	伊藤 和幸
講師・スタッフ	コミュニケーションSIG	寺師 良輝
講師・スタッフ	SIG姿勢保持	相馬 正之
講師・スタッフ	SIG姿勢保持	繁成 剛(再掲)
講師・スタッフ	SIG姿勢保持	鈴木 聖貴
講師・スタッフ	車いすSIG	松尾 清美
講師・スタッフ	車いすSIG	桂 律也
講師・スタッフ	特別支援教育SIG	圓井美貴子
講師・スタッフ	特別支援教育SIG	圓井 陽子
講師・スタッフ	特別支援教育SIG	佐藤 亜弥
講師・スタッフ	特別支援教育SIG	高原 光恵
講師・スタッフ	SIG住まいづくり	八藤後 猛
講師・スタッフ	SIG住まいづくり	鈴木 基恵
講師・スタッフ	移乗機器SIG	古田 恒輔
講師・スタッフ	移乗機器SIG	内田 龍児
講師・スタッフ	義肢装具SIG	森田 千晶(再掲)
講師・スタッフ	義肢装具SIG	月城 慶一
講師・スタッフ	義肢装具SIG	仲内 信行
講師・スタッフ	義肢装具SIG	川村 慶(再掲)
講師・スタッフ	義肢装具SIG	剣持 悟
講師・スタッフ	義肢装具SIG	松田 靖史
講師・スタッフ	義肢装具SIG	鈴木 淳也
講師・スタッフ	乗り物SIG	櫻井 理
講師・スタッフ	乗り物SIG	岩崎 満男
講師・スタッフ	乗り物SIG	増子 千景
講師・スタッフ	乗り物SIG	中村 正善



◆参加者内訳

職種別

理学療法士		21
作業療法士		31
看護師		2
言語聴覚士		3
エンジニア		1
製造・営業		6
介護支援専門員		1
介護職		1
介護福祉士		2
支援員		2
教員		1
保育士		1
その他		2
合計		74

都道府県別

北海道	0	信越	1	近畿	1	四国	0
		長野	1	滋賀		徳島	
東北	64	新潟		京都		香川	
青森	1			大阪		愛媛	
岩手	6	北陸	0	兵庫	1	高知	
宮城	11	富山		奈良			
秋田	3	石川		和歌山		九州	0
山形	4	福井				福岡	
福島★	39			中国	0	佐賀	
		東海	0	鳥取		長崎	
関東	8	岐阜		島根		熊本	
茨城		静岡		岡山		大分	
栃木	2	愛知		広島		宮崎	
群馬		三重		山口		鹿児島	
埼玉	1						
千葉	1					沖縄	
東京	4						
神奈川						合計	74
山梨							

講義別

1日目 4月12日(土)			2日目 4月13日(日)		
	3階 あぶくま(96名)	4階 つきのわ(54名)		3階 あぶくま(96名)	4階 つきのわ(54名)
	車いすSIG	コミュニケーションSIG		移乗機器SIG	義肢装具SIG
10:10~11:30	①   49	②   19	09:00~10:20	⑨   58	⑩   8
	車いすSIG	コミュニケーションSIG		移乗機器SIG	義肢装具SIG
12:30~13:50	③   53	④   18	10:30~11:50	⑪   63	⑫   3
	乗り物SIG	特別支援教育SIG		SIG姿勢保持	SIG住まいづくり
14:00~15:20	⑤   54	⑥   12	12:50~14:10	⑬   49	⑭   17
	乗り物SIG	特別支援教育SIG		SIG姿勢保持	SIG住まいづくり
15:30~16:50	⑦   57	⑧   10	14:20~15:40	⑮   38	⑯   29

◆アンケート結果

受講申込数：74名 当日受講者数 71名 回答数：50（回答率：70.4%）

1 職種および経験年数をお教えてください。

〈職種〉	回答数	経験年数					未記入
		～5年 目	～10年 目	～15年 目	～20年 目	21年目 ～	
理学療法士	14	6	4		2	1	1
作業療法士	19	6	10	2		1	
言語聴覚士	3	2	1				
看護師	2					2	
エンジニア	1		1				
製造・営業	3		2	1			
介護福祉士	2	1	1				
相談員	0						
支援員	1	1					
教員	1				1		
その他	1	1					
その他(ユーザー)	1					1	
その他(学生)	1	1					
未記入	1						1
合計	50						

2 日本リハビリテーション工学協会の協会員ですか？（該当するものを○で囲んでください）

ア. 協会員	3
イ. 非協会員	46
未記入	1
合計	50

3 何県からのご参加でしたか？

青森県	1
秋田県	3
山形県	3
岩手県	2
宮城県	5
福島県	28
栃木県	2
千葉県	1
東京都	1
長野県	1
兵庫県	1
未記入	2
合計	50

4 当協会では障害のある方のリハビリテーションを支援する機器や技術について、リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者が互いに理解できる言葉で納得できるまで討論することを目的として、毎年1回リハ工学カンファレンスを開催しています。次回は2014年8月24日（日）～27日（水）に広島国際大学（広島県）にて開催の予定です。参加してみたいと思いますか？

ア. はい	14
イ. 何とも言えない	26
ウ. いいえ	8
未記入	2
合計	50

5 今回の講習会を何で知りましたか？（申込書でのアンケート項目）

ア. 当協会のホームページ		20
イ. 当協会からのDM(開催案内)送付		25
ウ. その他		20
	職場	1
	同僚	4
	知人	3
	先生	1
	講師	1
	福島県OT士会	2
	Facebook	1
	PT-OT-STネット	3
	未記入	4
未記入		9
	合計	74

6 今回の講習会について

(1) 開催曜日はいかがでしたか？

ア. 土日でよい	41
イ. 週末(金土)がよい	3
ウ. 平日がよい	5
未記入	1
合計	50

(2) 開催日数（2日）はいかがでしたか？

ア. 短い	0
イ. ちょうどよい	46
ウ. 長い	2
未記入	2
合計	50



(3) 講習会はいかがでしたか？

ア. 満足度が高かった	35
イ. 満足度がふつう	11
ウ. 満足度が低かった	2
未記入	2
合計	50

(4) どの講義を受講されましたか？

前述の参加者内訳 講義別をご参照ください。

(5) 今度受講してみたい講義はありますか？

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
①車いすSIG 「歩行が困難になっても大丈夫、車椅子と住環境整備で生活を楽しもう」	2	11														
②コミュニケーションSIG 「最適なコミュニケーション環境をめざして(選定・導入支援編)」	6	1														
③車いすSIG 「車椅子要介護の方の在宅復帰」			1	11												
④コミュニケーションSIG 「最適なコミュニケーション環境をめざして(適合・機器操作編)」			7	1												
⑤乗り物SIG 「24時間人工呼吸器使用者の在宅療養上のリスクマネジメント ～東日本大震災の教訓から学んだこと～」					1	7										
⑥特別支援教育SIG 「コンセプトは「みんなのお母さん」！～自然と心に滑り込む、障害理解の進め方、広げ方～【前半】」					5											
⑦乗り物SIG 「車椅子装着タイプの移動補助具の紹介」							1	6								
⑧特別支援教育SIG 「コンセプトは「みんなのお母さん」！～自然と心に滑り込む、障害理解の進め方、広げ方～【後半】」							4									
⑨移乗機器SIG 「移乗の問題と座位移乗手法(トランスファー・ボードを用いて)」									3	11						
⑩義肢装具SIG 「体験編「義肢装具の可能性を知ろう」」									2							
⑪移乗機器SIG 「移乗を前提としたベッド上や車いす上での姿勢修正」											2	10				
⑫義肢装具SIG 「応用編「義肢装具の現在未来。一歩き方の違いを体験しよう」」											2					
⑬SIG姿勢保持 「車椅子での姿勢を改善する方法と実際」													1	13		
⑭SIG住まいづくり 「住宅内事故防止 住まいの安全・安心のために」													8	1		
⑮SIG姿勢保持 「ウレタンフォームで製作する姿勢保持具」																9
⑯SIG住まいづくり 「事例から学ぶ住環境整備」																9
未記入			1		1	1	3	1						1		2

7 日本リハビリテーション工学協会には下記 10 のSIGがあります。今後どのSIGのどのようなテーマの講義を受けてみたいですか？

コミュニケーションSIG	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>■失語、高次脳関連</li> <li>■自作機器、自作スイッチ類</li> <li>■ipod、IT支援</li> </ul>
SIG姿勢保持	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実技講習会</li> <li>■シーティング困難事例</li> <li>■ウレタンフォームの活用</li> <li>■姿勢分析から見た福祉用具の導入</li> </ul>
車いすSIG	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>■最新機種、未来の機種、車椅子の処方、クッションの処方</li> <li>■歩行が困難になっても大丈夫、車椅子と住環境整備で生活を楽しまう</li> </ul>
乗り物SIG	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>■余暇を楽しく過ごすための乗り物</li> </ul>
自助具SIG	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>■握力の補助、ピンチの代償</li> <li>■種類、事例</li> <li>■ユニバーサルデザイン</li> <li>■家事に使える使いやすい自助具</li> <li>■事例からの学び</li> <li>■整容などの日常的に使う用具</li> <li>■自助具の最新情報</li> </ul>
特別支援教育SIG		
SIG住まいづくり	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>■具体的な、費用をかけず</li> <li>■住環境整備</li> </ul>
移乗機器SIG	65	<ul style="list-style-type: none"> <li>■実技講習会</li> <li>■実技</li> </ul>
SIG褥そう防止装置	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>■基本、応用</li> <li>■適応と評価</li> <li>■体験比較会</li> <li>■褥瘡の見方と泊座的介入の基礎</li> </ul>
義肢装具SIG	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>■今回の⑩⑫の内容</li> </ul>

8 今回の講習会のご意見・ご感想等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

◆多少内容が重複しているところもありましたので講師間の共有も必要かと思いました。他領域の分野から生活支援のあり方を考える機会となり、今後の教育・指導に活かしたいと思います。
◆いろいろなテーマのお話を聞くことができ、中にはほとんど知らない分野の話もあったので楽しく勉強することができました。2日間ありがとうございました。
◆実技、ウレタンフォームが難しかったです。もう少し練習してみようかと思います。
◆実技 デモの時間が長いとよいです。
◆うまく作れませんでした、ウレタンの実技楽しくできました。職員でも応用してみようと思いました。またトランスファーボード等、活用していきたいと思います。
◆楽しく参加させていただきました。
◆臨床にすぐ役立つ内容が少なかった。⑨は具体的で実践していきたいと思った。
◆工学的な内容は難しい面もありましたが、大変勉強になりました。ありがとうございました。OTとしてITへの興味関心も必要になると感じました。
◆様々な体験も交えて楽しく勉強できました。貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。次回も参加したいと思っています。
◆私事になりますが、特養でOTをしており、前職の訪問リハビリからの職場変更で車椅子や移乗についての講習は本当にタイムリーで明日からの仕事にすぐ活かせそうです。機会がありましたら、またぜひ参加したいです。
◆どの講義も大変勉強になりました。
◆自分がこれまで見たことのない機器にたくさん出会うことができ、かつ体験することもでき、非常に良い経験になりました。また、実際にそれを利用している方がご講義をなさっていたので、生の声として聞くことができ、ためになりました。ノーマライゼーション的なスタンスがとてもよかったです。
◆会場内、若干寒かったです。初めて参加しました。来てくれてありがとうございます。勉強になりました。
◆今回は座学が中心だったので、実技講習をフォローアップ研修として開催検討してほしい。
◆体験型のもが多く実践することで理解が深まりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
◆実際の生活に基づいたお話が多かったので、担当患者様をイメージしながら聞くことができたので、よかったです。
◆車椅子で生活されていたり、義肢を普段から使用されている方が実際に来てくださり、話を聞けたので非常に有意義でした。
◆自分が行っている移乗方法が誤っていたり、車椅子などに対する考え方の視野を広げることができ勉強になりました。
◆住環境整備では転倒の事例が知りたい。
◆実技も多く、とても勉強になりました。また機会があれば参加したいです。
◆聞きたい講義がたくさんあって、選択するのが大変でした。
◆スライディングシートを購入しました。施設で広めていきたいと思います。
◆うちの施設はきちんとしたOT、PTがいません、Ns、介護福祉士がやっている状況です。大変ためになりました。
◆方法論も大切ですが、なぜそうなのかといった人から見た理論を踏まえて人に合わせてどう福祉用具を活用するか、物から見てどんな人に合わせられるのか、どんな使い方があるかを伝えてほしいと思います。福島に来ていただきありがとうございます。福島の人とのコラボも望みます。(若い人)
◆各SIGでテーマを出していただきたいので、いろいろな分野を見ることができよかったです。それぞれのテーマをもう少しじっくり見れるとよいと思いました。(今回はinformationインフォメーション的だったので。)
◆自分が知らない製品などを知ることが参考となった。
◆とても勉強になりました。
◆とても勉強になりました。今後も機会があれば受講してみたいです。
◆講習会は問題点は出すが、それをどうすればよいかかわからない講義が多かった。もう少しレベルの高い内容
◆初めてSIG講習会に参加しました。大学の教授の先生の話聴講する機会は臨床に出るとあまりないので、とてもよいと思いました。日数や時間もちょうどよいと思いました。
◆ぜひとも継続して開催していただきたいです。
◆テキストのパワーポイント資料の順序がまちまちなので統一してほしいです。
◆食事の持込ができない等、会場に問題あり。会場への誘導、時間について配慮ができていない。



最後に・・・今回の講習会を採点すると100点満点で何点ですか？

150点		
100点	13	
95～99点	4	◆受講したいものがだぶったためです。
90～94点	6	
85～89点	1	
80～84点	14	◆もっと時間がほしい。
75～79点		
70～74点	3	
65～69点		
60～64点	1	
55～59点		
50～54点		
45～49点		
40～44点		
35～39点		
30～34点	2	◆講習50点、スタッフ30点
25～29点		
20～24点	1	
未記入	5	

Y-18300 F17775Ag  
B1 S フルカラー d:suga



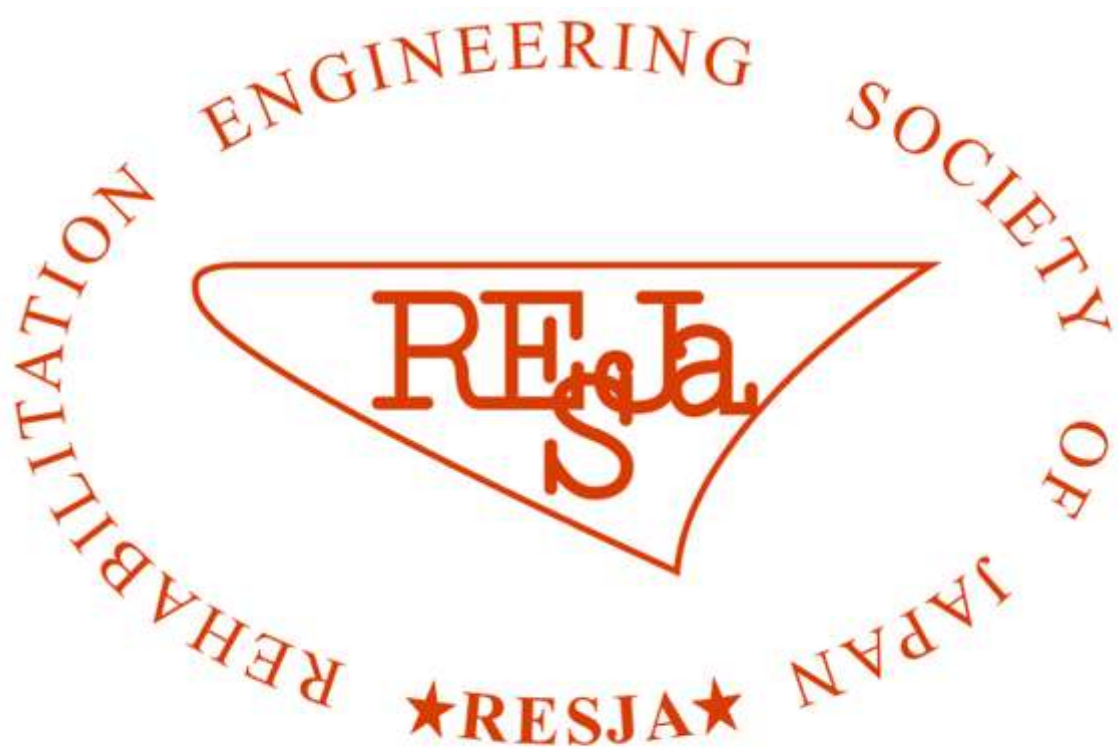
報告書作成

2014年5月1日

一般社団法人日本リハビリテーション工学協会事務局

235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 2-7-20

TEL : 045-353-8365      FAX : 045-353-8366



日本リハビリテーション工学協会